

英語リスニングにおける内容理解の阻害要因

箱 崎 雄 子

Major Impediments to English Listening Comprehension

Yuko Hakozaiki

1. は じ め に

日本人英語学習者は、4技能の中でも特にリスニングに苦手意識を持つ場合が多い。このことは、聴覚提示されたときには理解できないが、同じテキストを視覚提示されると辞書の助けを借りることなく理解できるという経験からも学習者は実感することができる。

リーディングとリスニングが顕著に異なるのは、情報の入力速度をコントロールできるか否かである。リスニングの際とは異なり、リーディングの際には、読み手は、テキストの一部を飛ばして読んだり、特定の単語に時間をかけたりして、自分のペースで情報を処理することができる (Just and Carpenter, 1980)。

一般に、ある文章を視覚提示されて理解できない場合、その背景にあるのは、語彙力や文法力の欠如である。よって、学習者は、その文章を理解するために、文脈を利用したり、何度か繰り返し読むことによって文の構造を理解したり、意味が分らない単語がある場合には辞書を引いたりすることによって、読み進んで行くことができる。一方、リスニングの場合には、自分が会話の当事者でない限り、理解度に関係なく音声情報が次々に提示されることから、内容を理解できないまま終わってしまうことがある。

2. 英語リスニングを困難にする要因

英語学習者がリスニングを難しいと感じる要因については多くの研究が行なわれている。Ikemura (2001) は、大学生を被験者とした実験を行ない、日本人学習者が、文字による単

語認知に比べ、いかに音声による単語認知が苦手かをデータで示している。そして、日本人にとって聞き取りにくい音が含まれていること、カタカナ語と実際の英語の発音とを結びつけることができないことをその要因として挙げている。

また、Brown (2001)は、話し言葉の特徴に言及しながら、リスニングにおける困難要因を8つ挙げており、英語学習者はこれら話し言葉の特徴に留意すべきであると指摘している。具体的には、リスニングの不得手な学習者は、①適切なチャンク単位で聞き取ることができない、②話し言葉においては、同じ意味や内容を表す表現が重複して用いられることが多いが、学習者はこの話し言葉における冗長性を利用できていない、③縮約などの音変化や縮約形、省略法に慣れていない、④言い淀みや言い直しなど、話し言葉特有の現象に慣れていない、⑤イディオムやスラングなど、口語体の特徴に慣れていない、⑥速い発話速度についていけない、⑦英語独特の強勢、リズム、イントネーションといった韻律の特徴に慣れていない、⑧交渉、説明、会話交替の規則に則った会話など、対話することに慣れていない、としている。

視覚提示されたテキストを読む場合には、学習者の既知語のサイズや語彙の使い方に関する知識といった語彙知識が読解力に大きく影響することは疑う余地がない。¹ テキストの総語数における既知語の占有率が95%に達している場合、文脈から未知語を推測しながら、テキストの内容を理解することができるといわれている (Laufer, 1989)。

そこで、本研究では、リーディングにおいては問題なく理解できるとされるテキスト、つまり、既知語の占有率が95%以上であるテキストを聴覚提示し、リスニングに苦手意識を持つ学習者がどのような聞き方をしているのかを探る。

3. 実験

3. 1 被験者と実験提示教材

英語を専攻語にしている大学生80名を被験者とした。

本実験は、リスニングに苦手意識を持つ英語学習者はなぜ聞き取ることができないのか、その原因を探ることを目的としていることから、使用する音声教材の選択にあたっては、被験者にとって未知語が5%以下であること、母語話者にとって自然な発話速度であること、モノログで不特定多数の聴衆を想定していること²、記憶能力の差の影響が出ない程度に短く、話と

1 実際、英語のリーディング教材には語彙レベルが明記されており、難易度を表す指標となっている。

2 ダイアログの場合、話者は共通の知識を持っており、第三者が聞いた際に、すぐには内容の理解が来ない場合がある。また、スピーチの場合にも、通常、聴衆は話者がだいたいどのような発言をするのかを前もって知っていることが多い。

して完結していることをその基準とした。使用されている語彙については、多義語の場合、複数の意味の中から意味の絞込みを行なう必要があり、それがリスニングの際に負荷となる可能性があることから、意味の使用頻度 (frequency) や親密度 (familiarity) の点で最も一般的な意味³で使用されているかどうかにも注意を払った。また、被験者の背景知識の有無がリスニングに作用しない内容、つまり、被験者にとって身近な内容であり、いわゆる「リスニング能力」があれば理解できることも条件とした。以上の観点から、テキストには AFN (American Forces Network) のスポット・アナウンスメントを使用することにした。内容は、地震の際の心構えについて述べたものであり、総語数は84語で、放送所要時間は30秒間であった。発話速度は168wpm であり、英語話者の平均的な発話速度とされる1分間に160～190語 (Pimsleur et al., 1977) の範囲内であった。

3. 2 実験手順

実験では、まず音声教材を聞かせ、次に、音声教材を聞きながら内容理解において重要と思われる単語をメモするよう指示した。その後で、そのメモを参考にしながら、要点を日本語で書かせた。次に、テキストのキーワード (①地震、車、エンジン、②地震、テーブル、③地震、広々とした場所) を日本語で与え、文章化させた。最後に、音声教材のスクリプトを配布し、意味が分らない単語をチェックさせた。

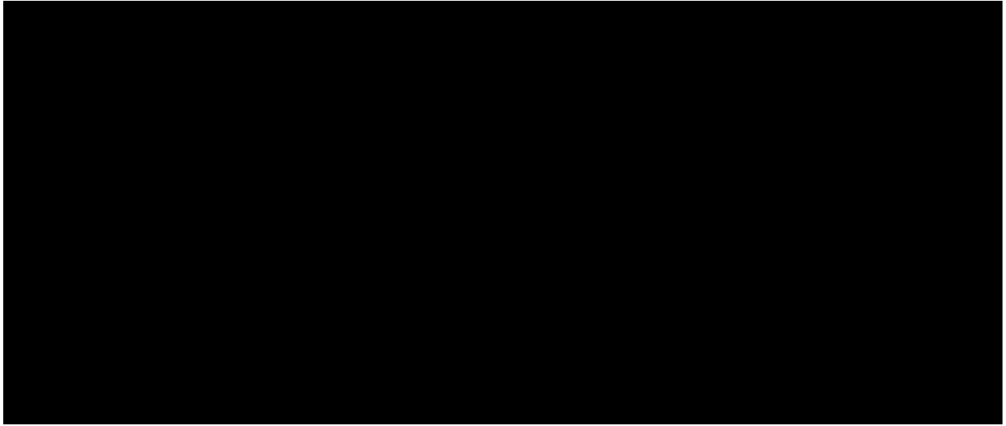
3. 3 結果と考察

今回利用した音声教材には、聞き取りのポイントが3つ (①車を運転している場合には、エンジンを止めて、ラジオの情報に耳を傾ける、②屋内にいる場合には、机やテーブルの下に身を隠す、③屋外にいる場合には、広々とした場所に避難する) あり、そのいずれもが地震時の心構えとしては一般的なものといえる。また、テキストを理解するために重要と考えられる単語 (earthquake、car、engine、radio、information、indoors、desk or table、outside、open area) は、いずれも学習英語辞典において中学あるいは高校で学習すべき単語、いわゆる基本語に指定されており、今回の被験者にとっても熟知度が高い「高熟知語」に分類される。従って、テキストを理解するためには特別な知識は必要なく、極端な場合、これらの重要語さえ捉えることができれば、内容を容易に予測することが出来たはずである。ところが、被験者の多くは聞き取りのための3つのポイントを押さえることが出来ていなかった。

既知語の占有率の平均が96%であったことから、今回使用した音声教材は、読解用であれ

3 例えば、'table'の場合、「テーブル」や「表」などの意味があるが、学習者にとっては「テーブル」という意味が最も一般的であると考えられる。

ば被験者にとって「容易に理解できる」程度のものであったと言える。既知語の占有率の分布は図1の通りである。



既知語率

(図1)

具体的にみると、tremors は被験者全員が未知語として挙げていたが、「揺れが始まった時に運転中であれば (If tremors begin and you're on the road)」という節で使用されており、tremors という単語を知らなくても内容理解はできる。また、次に多く挙げられていたのは Disaster Preparedness Office (災害対策本部) と Eagle 810 radio であるが、前者は最後の文章 (Contact your Disaster Preparedness Office for information on earthquake safety.) に出てきており、今回要求した3つのポイントには含まれていない。また、Eagle 810 は固有名詞であり、radio さえ理解出来ていれば内容把握に支障はない。では、被験者が実験提示教材を聞き取ることができなかった原因は何であろうか。

まず、被験者の取ったメモを見ると、内容理解に重要な役割を果たす内容語ではなく、文章を書き取ろうとしているケースが多く見受けられた。また、とにかく聞き取ることができた単語を書き出しているという傾向も観察できた。英語の場合、意味的に重要な語句には強勢が置かれるが、被験者は、声の調子やリズムから聞き取ること慣れておらず、英語独特の韻律の特徴から得られる情報を生かしきれていない可能性が指摘できる。

実験後に、被験者にアンケートを実施したが、その結果、「キーワードは聞こえていたが、内容理解に繋がらなかった」「単語は分ったが、文章化することが出来なかった」などの意見が多く寄せられた。通常、リスニングが不得意な学習者の場合、音変化が原因で既知語を認識できないということがあがあるが、今回の被験者は、内容理解に必要なキーワードは聞き取ることができていた。では、なぜ、キーワードを聞き取ることができているにも係らず、内容理解に

至らなかったのでしょうか。

特に今回使用した音声教材は、「地震の際の心構え」についてのものであり、ほとんどの被験者にとって既知の内容であったはずである。つまり、キーワードさえ聞き取っていれば、内容を容易に予測できるテキストであった。そのことは、英語のリスニング試行後に、日本語でのキーワードを提示すると、多くの被験者が容易に文章を作成することができたことからもうかがえる。具体的には、「地震」、「車」、「エンジン」という3つのキーワードから「地震の際には車のエンジンを止める」という文章、「地震」と「テーブル」という2つのキーワードから「地震の際には、テーブルの下にもぐる」という文章、「地震」と「広々とした場所」という2つのキーワードから「地震の際には広々とした場所に避難する」という文章を被験者は容易に導き出すことができていた。

テキストの読解においては、眼球が単語を捉える注視時間（gaze duration）は、出現頻度の高い単語ほど短いとされる（Just & Carpenter, 1987）。このことをリスニングに置き換えて考えてみると、リスニングが得意な学習者は、親密度の高い単語にはあまりエネルギーを消費せず、効率的な聞き方をしているはずである。一方、リスニングが不得手な学習者の場合、聞き取れたということ自体に価値を見出してしまうため、本来、内容理解をする際に重要な語句に向けられるべき選択的注意が、内容に関係なく、聞き取ることができた単語に向けられてしまったようである。つまり、出現頻度の高い単語、より身近な語句⁴に注意が行く傾向が見受けられ、それらの単語に集中するあまり、単語と単語の意味的なつながりや文章全体における位置づけを意識することができなかったと思われる。

また、英語のリスニングの場合には、背景的知識があるにも係らず、それを利用しようとせず、すべての単語を聞き取ろうとする傾向が見られた。そして、単語を聞き取るということで終わってしまった。このことでボトムアップ処理に時間がかかり、その結果、背景的知識と照合する余裕がなくなり、文全体の意味の把握をすることができなくなったものと考えられる。

4. お わ り に

リスニングに苦手意識を持つ学習者ほど、全てを細部にわたるまで聞き取れていなければ不安に思う傾向がある。一歩進んだリスニングを行なうためには、「木を見て森を見ず」という状況から脱却し、一言一句漏らさず聞き取らなければならないという強迫観念の呪縛から解放されることが重要である。そのためにも、リスニングの際には、強勢がおかれる内容語を認識して聞くことなどによって、意味上重要な語を見つけ出し、その意味的つながりを考え、場面

4 例えば、right now、would you、what to do、life など。

を思い描くようにする必要がある。また、語彙学習の際には、単語の綴り字を見て覚えるだけでなく、まとまりのある文章の中でどのように発音されるのか、という聴覚面からの学習も合せて行なうことが重要である。

今後は、発話速度やポーズの頻度などの要因が、リスニング理解度にどのような影響を及ぼすのか検証したい。

参考文献

- Brown, H. D. 2001. *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy*. New York: Addison Wesley Longman.
- Ikemura, D. 2001. How Japanese learners recognize the English words they hear. 横川博一(編)『現代英語教育学の言語文化学的諸相：斎藤榮二教授退官記念論文集』pp. 262-280. 東京：三省堂
- Just, M. A. and Carpenter, P. A. 1980. A theory of reading: From eye fixations to comprehension. In *Psychological Review* 87, pp. 329-354.
- Laufer, B. 1989. What percentage of text-lexis is essential for comprehension? In C. Lauren and M. Mordman (eds.), *Special Language: From Humans Thinking to Thinking Machines*, pp. 316-323. Clevedon: Multilingual Matters.
- Pimsleur, P., Hancock, C. and Fuery, P. 1977. Speech rate and listening comprehension. In M. K. Burt, H. C. Dulay and M. Finocchiaro (eds.), *Viewpoints on English as a Second Language*. New York: Regents Publishing Co.

APPENDIX 実験提示教材

If an earthquake occurred right now, would you know what to do? Being prepared for an earthquake in Japan could save your life. If tremors begin and you're on the road, stop your car, turn off the engine, and listen to Eagle 810 radio for information or instructions. If you're indoors, get under a desk or table to protect yourself. But if you're outside, get to an open area as soon as you can. Contact your Disaster Preparedness Office for information on earthquake safety.

〔出典：アルク出版編集部(編). 1998. 『AFN スポット・アナウンスメント(アルクCDライブラリー27)』 東京：アルク〕